大障教ニュース

大阪府立障害児学校教職員組合
大阪市天王寺区東高津町7-11
府教育会館704号
TEL 06-6765-8904
FAX 06-6765-8905

「発達がわかれば、こどもが見えてくる」

～発達の原動力は子どもの中にある～

連続講座第1回　発達学習会（0歳～1歳半頃の発達について）

発達について基礎から学ぼうということで連続の発達学習会を企画し、「第1回発達学習会」が、10月19日（土）、たかつガーデンにて開催されました。講師は、宮本郷子さん（龍谷大学社会学部特任教授・元大阪府内小学校教諭）でした。30名の方が参加されました。

子どもの発達を学ぶことの意味

まず初めに、宮本さんは、「子どもの発達のみちすじは、子どもによって個人差があり、障害を受けていることで制約があるが、基本的には共通の発達のみちすじを歩む」「どの子もみんな発達の可能性を持っている」ということを話されました。発達を学ぶことで、その子どもが今、どの発達の段階にいるのかを知ることができます。その発達段階の少し前の段階の課題を取り入れて実践していくことで、その子どもの発達を豊かにすることができること、見通しをもって子どもを捉え、優しい気持ちで子どもと向き合い、教育実践に取り組むことができることを話されました。

講師の宮本郷子さん

すぐに結果を出さなければいけないと思わされていませんか？

宮本さんは私たちにこう問いかけました。「子どもの見える行動だけを変えようと思わされていませんか？」と。大切なことは、目に見える子どもの体や行動面の変化だけでなく、目には見えにくい子どもの内面・心の発達、自我の育ちを促していくこと。子どもの意欲や主体性を培うことが大切で、発達の主人公は子どもである、発達していく力、伸びていく力は子どもの中にあると伝えてくださいました。

行きつ戻りつしながら、らせん状に発達していく

子どもの発達は一直線の右肩上がりではなく、行きつ戻りつしながら、らせん状に発達していくことも話されました。だからこそ、悩んだり葛藤したり足踏みしたりしながら自分で決めていく力を培うことや子ども自身が学習や遊び・生活の主人公になることが最も重要なことだと強調されました。

そして、乳児期から1歳半頃は子どもの心身両面での発達が進む時期で、身体が大きく育つとともに神経の髄鞘化も進む時期であり、この時期の発達的特徴について伝えてくださいました。

最後に、30分ほど感想や悩みなどを出し合って交流をしました。参加された先生たちから率直な思いが出され、共感する先生も多く、あたたかい雰囲気に包まれました。

参加者の感想

○発達そのものに焦点を当てた研修は　意外と少ないので、今回の学習会は大変ありがたかったです。発達について具体例をまじえながら、教員として子どもをどう見るか、関わっていくべきか、といった観点とともに学ぶことができてよかった。

○すぐに成果を出すことにとらわれずに子どもたちが納得して課題を乗りこえられる支援をしていきたいと思います。

○講義を受けて「こんなことがしたいなぁ」と日々の授業や指導の場面でやりたいことが次々と浮かびました。職場は自分ひとりではないので、周りの先生と話し合うこと共有することを大切にしていこうと思いました。

連続講座
第2回発達学習会

乳児期後半～幼児期前半（1歳半頃～3歳代）の発達について

日時：12月7日（土）
10：00～12；00

場所：たかつガーデン
3F「カトレア」

講師：宮本郷子さん

大障教ホームページアドレス　http://fc06631220171211.web2.blks.jp/　Eメールアドレス：fushoukyou_1@mtb.biglobe.ne.jp

書記局のひとりごと

十一月十八日は、イギリスの自動車技術者「イシゴニス」が生まれた日だ。彼は、私の大好きな車「Mini」（ミニ）の設計者。

当時の小型車のホイールは十六インチが標準だった。ヨーロッパのビッグ3「フォルクスワーゲン、ルノー、フィアット」は、小型車ではリアエンジンを採用していた。開発が難しいFF車（フロントエンジン、フロント駆動）の長所を確信するイシゴニスは、革命的な小型車を開発する。現在、市販されているFF車の原型はミニだ。

ミニの開発は、「BMC（ブリティッシュ・モーター・コーポレーション）」にすでにあるエンジンを使用することが前提だった。限られたスペースにエンジンとギアボックスを収めるために、ギアボックスの上にエンジンを配置し、横置きにする斬新なレイアウトをイシゴニスは考えた。また、エンジンはもともと百八十度反対に据えられていた。しかし、その配置ではキャブレターが車の進行方向を向き、冬場は凍ってしまうため、その向きが変更された。

小さな10インチホイールをボディーの四隅に配置し、ゴムのサスペンションを採用したミニは、その軽量さもありレースで大活躍した。ラリーの王者であったポルシェ911を打ち負かし、モンテカルロラリーで三期優勝した。最も人気があったのが一九六七年の「LBL6D」、ゼッケン177のミニ・クーパー1275Sだろう。

技術は日進月歩だ。車に求められることも変化する。しかし、現在の到達点は、過去の努力と到達の上にあることが良くわかる。引き継がれているものは、やはり「哲学」なのだろう。（久）

同じ思いで一緒に動ける仲間が支えに

北河内ブロック合同教研

8月2日～3日、北河内ブロック合同教研を四條畷市のアイ・アイ・ランドにて行いました。今年で11回目となり、各分会（交野支援、光陽支援、四條畷校、寝屋川支援、枚方支援、守口支援など）から、毎年連続参加のベテランの先生や初参加の初任の先生など合わせて23人が参加しました。

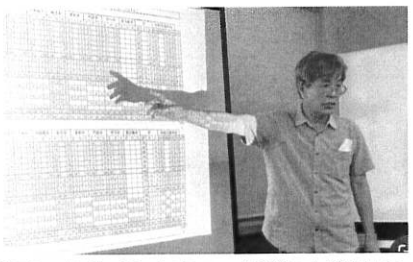
分会立ち上げの経験を語る佐々木さん

1日目前半の学習会は、光陽支援分会の佐々木起美子さんから「分会と私～教員人生をふりかえって～」というテーマでのお話でした。交野支援学校で組合に加入した頃は、青年フェスタや分会の教研に楽しく参加していたこと、その後、青年部の引継ぎがうまくいかずに心折れて、異動を機に一度組合を離れたことから話されました。しかし、異動先の寝屋川支援学校で児童生徒数が400人に近づき、深刻な教室不足に直面。「遊戯室は転用され、譲り合いで子どもたちに我慢させなければならない。もっと自由に遊ばせてあげたい。子どもたちをもっと笑顔に」との思いで組合に復帰しました。「過大・過密」の解消を求めて、分会の仲間や保護者とともにさまざまな活動にとりくんできたこと、その中で開校した交野支援学校四條畷校と枚方支援学校では、新たに分会の立ち上げを行い、分会活動に尽力されてきたといったお話を聞き、参加者からは「二つも分会の立ち上げができたのは佐々木さんだけ」「普段のやさしい雰囲気からは想像できないすごいエネルギー」と、驚きの声が上がりました。

佐々木さんは、「私にとって分会とは、働くことの一部。働きやすい職場にする、子どもたちのためによい学校にするのが分会活動。民主的な学校運営のためには分会が必要。多くの課題に直面したときも、同じ思いで一緒に動ける仲間がいたことが支えになり、苦にならなかった」と、これまでを振り返りました。

参加者ひとり一人の発言から学び合いました

後半の学習会では「私にとっての組合活動」というテーマで、参加者全員が発言し交流しました。加入のきっかけについては、「相担の組合員の先生みたいになりたい。自分のためになると思って加入した」「子どもたち、先生たちのための活動。少しでも力になりたいから」「先輩たちが勝ち取ってきた制度、権利を次の世代にも」「日々おかしいことに怒っていたら、なぜおかしいことになるのか、しくみを教えてもらえた」「賃金カットが始まって、組合の存在が大事だと思った」などの声が上がりました。加入し続けている理由や、活動については「いろんなことを同時にできないから、入っているだけだった。子育てがひと段落してから会議や学習会に参加し始めた」「毎日いっぱいいっぱい。分会で話をすると枯渇している気持ちに水が入る」「そろそろ、やってもらってきたことを返していきたい」「話しやすい職場環境づくりを意識している」「バレー大会を復活させたい」など、それぞれの思いが語られました。



市別に色分けした表で、通学区域割りの変遷を説明する鈴木さん

2日目は、「北河内の学校建設のとりくみ～枚方支援学校開校と四條畷校本校化のあゆみ～」というテーマで、四條畷校分会の鈴木浩司さんからのお話でした。北河内の知的障害支援学校の児童生徒数の推移、通学区域割りの変遷、枚方支援学校建設のとりくみ、四條畷校存続のとりくみ、そして、四條畷校本校化に向けてのこれからの課題について、資料をもとに話を聞きました。参加者からは「知っているつもりだったが、何も知らなかった。たくさんの人のねがいや努力でできた学校だと分かった」「教室不足はすでに限界。どう乗り越えるか」「中学部で8人、9人学級。この状態に慣れてしまってはいけない」「通学バスの添乗体験をしたとき、乗車時間が長いと負担が大きいことを実感した」「生徒が通っている中で、本校化に向けた工事はどう進むのか」といった、それぞれの観点からの発言がありました。

毎年恒例の北河内教研ですが、今年も新たな出会いと学びがありました。お互いの発言から学び、明日への力になる教研、来年度も楽しく続けていきたいです。

（枚方支援分会　林　陽子）

参加者の感想

○ひとりの先輩の歩みは、みんなにとっての財産ですね。

○これまでのことを知れてよかった。なかなか参加できませんが、組合のみなさんの活動に大感謝なのでずっと加入しています。

○今いる学校は、当たり前にあるものだと思ってしまっていた。もっといろんなことを知りたい。

○継続して力を合わせることの大切さを学びました。

○若い先生たちのお話も聞けてよかったです。とても新鮮でした。

ええやん！組合！！ Vol.5

組合員の声を紹介します。あなたも大障教へ！

支え合い、高め合い、元気になれる！

富田林支援分会　西岡　健司さん

イノシシと共存する富田林支援学校・副分会長の西岡です。本校は、そんな自然に恵まれたこんごう福祉センター内の一画に位置し、日々四季を体感できる素晴らしい立地です。

事業団の中にある組合から、お互いの組合活動や職場のことを交流する場を持ちませんかというお話があり、何度か打ち合わせをして迎えた交流会当日。参加者は本分会より4名、事業団より3名の計7名。当初考えていた時間を越えて、素朴な疑問などを聞き合い、互いの理解を図る場となりました。

1人では弱くても、互いに支え合いながら、そして他団体とも高め合いながら活動を進めていくことで、新たな学びや刺激、何より元気を得ることができます。組合って、そういうところですよね。

読んでいただきありがとうございました。また明日からもがんばりましょう！